

B-1 実践の内容

1 単元名 なんだ!?!入れ物なんだ! (第4学年)

2 目標

- ・(関心, 態度) 入れ物には見えない置物をつくることに関心を持ち, 筒を立体的な楽しい形にすることを楽しむことができる。
- ・(発想や構想の能力) 差し込みができる筒の形をもとにつくりたいものを考え, 楽しい美しい立体になるように加える部分やその形を考えることができる。
- ・(創造的な技能) 厚紙の折り方(おりすじで)や丸め方など厚紙の扱いができるとともに, 思いに合ったつくり方をして形よい成形や丈夫な接合ができる。
- ・(鑑賞の能力) 部分をつける場所やつくり方に関心を持って作品のつくり方のよさを味わうことができる。



3 教材について

本題材は厚紙(中厚紙)を使った立体的な工作である。まず, 直径がわずかに異なる二つの筒をつくりそれぞれに底面を付け, 円柱状のふたになる外箱と入れ物になる内箱(重なった状態が基本の形)をつくる。次に, 外箱に部分(目や羽など)を加え, 単なる円柱を楽しい動物や乗り物などに変えていく表現である。作品は他者から見れば紙でできた置物に見えるが, 実は, 外側の楽しい形を取りはずせば中から内箱が現れ, 秘密の入れ物になっていたという点が, つくる楽しさをいっそう高めると考えた。

本題材で重要な課題は, 単なる円柱に部分を加えて円柱を楽しいものにする時に, どのようなことに気をつけるかということである。これまでの経験では, お面や車体などの半立体に対して, 平面的な形を上に加えたり横へつなげたり, のりしろで形を立てたりすることであった。放っておけば子どもたちは貼り絵的に部分の形を貼ったり, 正面ばかりをにぎやかにしたりするであろうと考えた。そこで, 全体を「楽しいものにする」を考える上で, 次のA, Bのことを共感し合えるようにした。

A 部分を加える場所のこと: どこから見ても部分がある表現をするとよい

- ・ある方向から見ると何もない(片側から見て表現するだけで平面的)のはさびしい。
- ・どの方向から見ても, もようや部分が見えて楽しい。

B 部分のつくり方のこと: 部分は(できるだけ)基本の形からとび出るように加えるとよい

- ・(平面的に貼り絵のように加えて)全体がほとんど基本の形(筒)のままではさびしい。
- ・基本の形からとび出る形(立体的に加える形)が多く, 全体が基本の形のままではなくものの形をしていると楽しい。

このような見方考え方が子どもに獲得されることによって, 子どもは立体にふさわしい造形を考えるようになり, 円柱と部分の接着接合方法は自ずと重視されるようになっていく。接着接合方法に関してはのりしろの「後付方法」のいくつかのパターンを提供することでたいていのことは応用で解決できると思われた。

本題材は厚紙の特性や成形方法, 丈夫な接合を体験しながら, 立体的に造形する基礎的な力を培う。この力は本校では5年生でアルミ板や板の工作, 6年生での段ボールや板の工作において更に発展的に応用されていく。